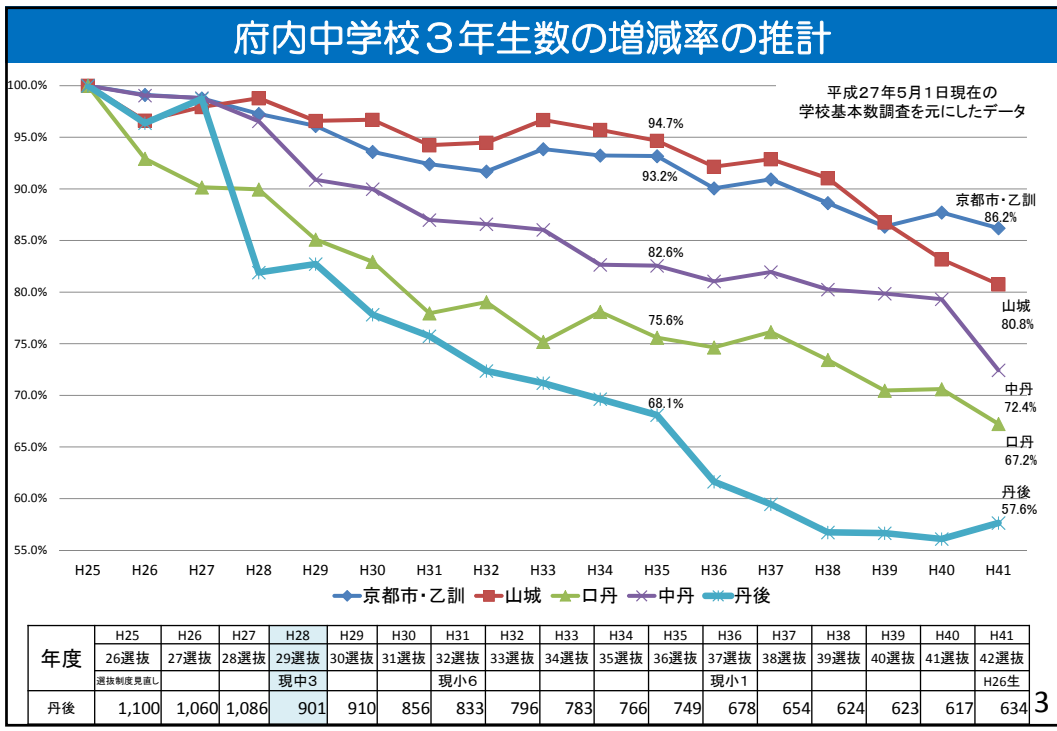


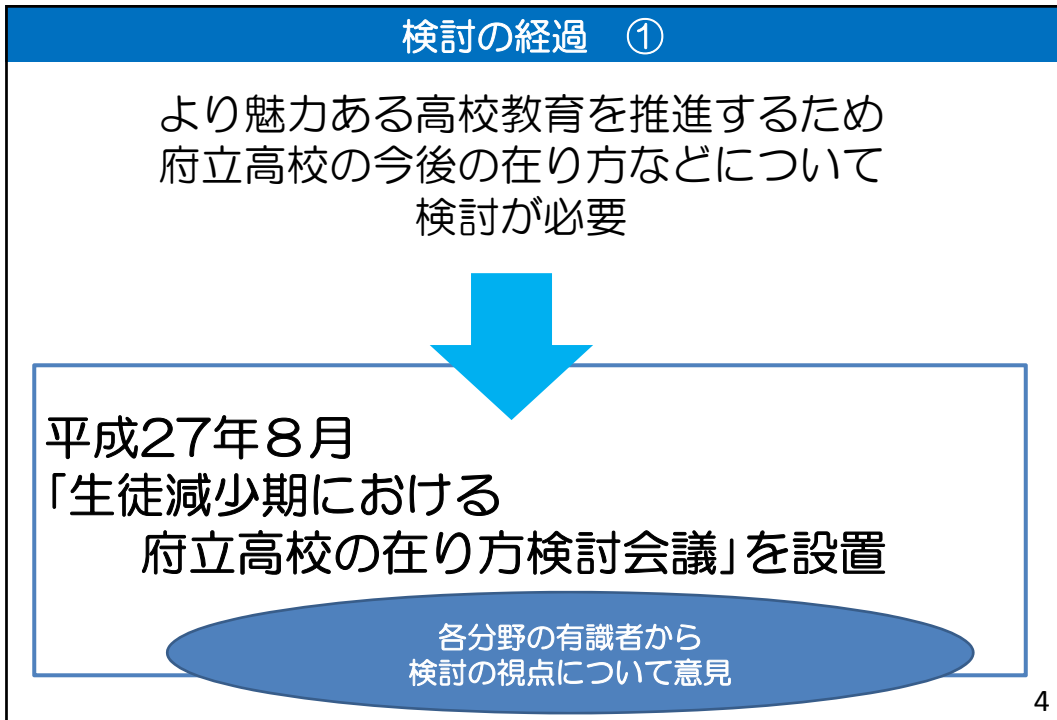
【丹後地域の府立高校の現状と課題】

課 題 認 識

- 今後、中長期的に府全域で生徒数が減少する見込み
- 特に府北部地域（口丹・中丹・丹後）では少子化傾向が顕著
- 学校の小規模化による学校教育活動への影響を危惧



3



4

検討の経過 ②

■ 検討に当たっての主な視点

- 府立高校と地域の結びつき
- 教育の質を確保していくための学校規模
- 学校再編の考え方や通学配慮
- 府立高校と私立高校の関係
- 専門的な学びや多様な学びの場の保障
など

さらに検討が必要な地域毎に
具体的な方向性の検討へ着手

5

検討の経過 ③

丹後地域における府立高校の在り方懇話会を設置

メンバー 市町関係者、産業界、PTA、教育関係者 など

開催経過 第1回 平成28年2月24日(水)
第2回 平成28年3月8日(火)
第3回 平成28年6月8日(水)

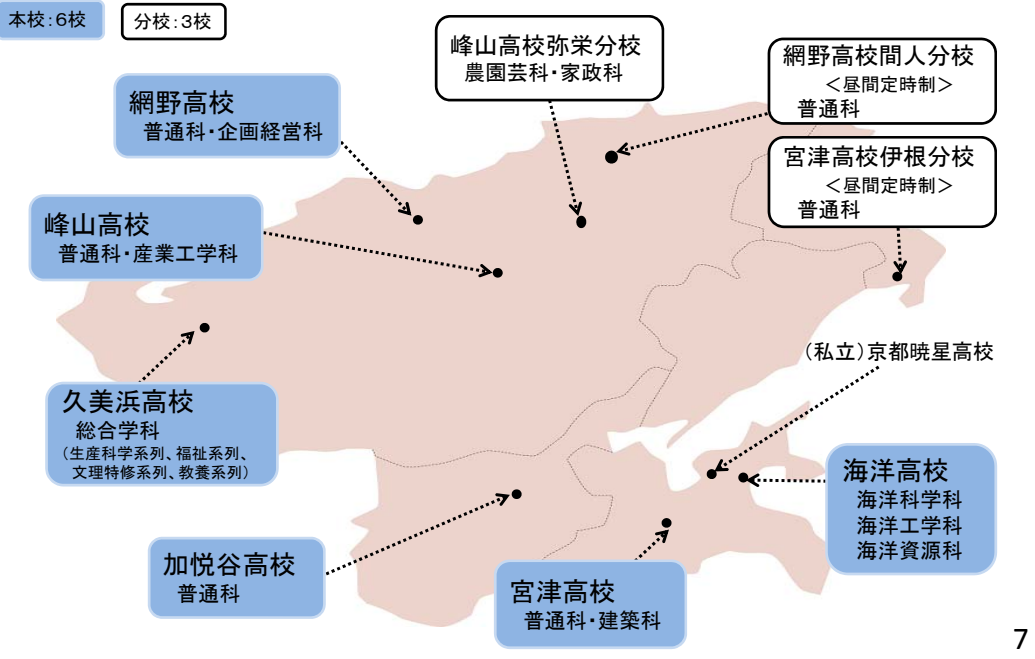
「丹後地域における府立高校の今後の在り方」公聴会を開催

概要 小・中学生の保護者、地域の皆さんに丹後地域の府立高校の現状と、今後の高校の在り方に関する基本的な考え方について説明し、意見をもとめたもの。

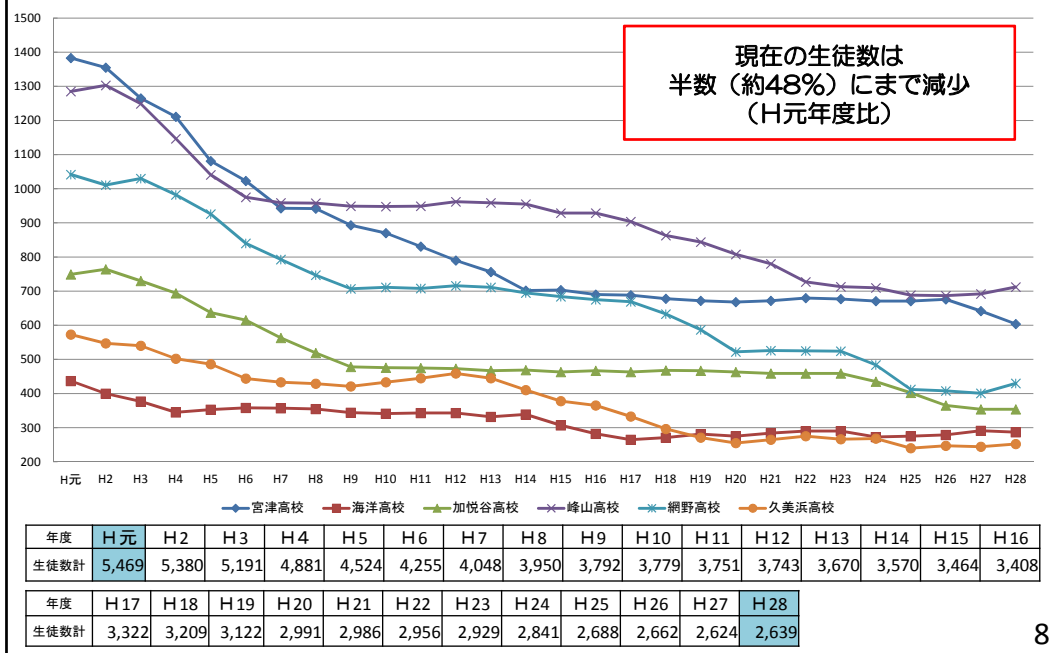
開催経過 平成28年7月9日(土)、7月24日(日)、7月31日(日)
宮津市、与謝野町、京丹後市(峰山町、網野町、久美浜町)の5カ所で開催
参加いただいた人数 のべ278名(うち保護者85名)

6

丹後地域の府立高校・設置学科



丹後地域の府立高校(全日制・本校)の生徒数の推移



丹後地域における府立高校普通科の学区別公立中学校3年生数の推計

※平成27年度=5月1日基本数調査(確定値)によるデータ
 ※平成28~35年度=平成27年5月1日基本数調査(確定値)による推計データ
 ※平成36~41年度=各年出生数(暦年)からの推計データ [各年出生数×現小1~6年生の(中3生時推計数/出生数)の平均率]

高校名 (普通科)	現・旧市町	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年
		28選抜	29選抜	30選抜	31選抜	32選抜	33選抜	34選抜	35選抜	36選抜	37選抜	38選抜	39選抜	40選抜	41選抜	42選抜
宮津	宮津市	169	143	136	134	131	138	140	130	114	96	110	106	105	94	95
	伊根町	14	12	13	13	10	6	4	12	9	4	13	6	13	7	11
	旧岩滝町	62	42	50	51	44	50	49	50	52						
	小計	245	197	199	198	185	194	193	192	175						
加悦谷	旧加悦町	81	58	68	56	72	53	54	41	50	164	154	148	152	148	145
	旧野田川町	132	94	95	82	98	85	83	82	75						
	小計	213	152	163	138	170	138	137	123	125						
宮津市・与謝野町・伊根町		458	349	362	336	355	332	330	315	300	264	277	260	270	249	251
峰山	旧峰山町	136	135	135	119	107	120	104	103	109						
	旧大宮町	121	108	103	114	100	91	97	94	93						
	旧弥栄町	66	43	50	51	45	35	46	46	36						
	旧丹後町 (旧入中の里・小松区)	18	12	13	14	12	13	8	13	8	414	377	364	353	368	383
	小計	341	298	301	298	264	259	255	256	246						
網野	旧丹後町 (旧東小松区以外)	42	29	40	26	24	18	20	29	32						
	旧網野町	164	144	130	119	122	109	107	97	97						
	旧久美浜町	81	81	77	77	68	78	71	69	74						
	小計	287	254	247	222	214	205	198	195	203	414	377	364	353	368	383
京丹後市		628	552	548	520	478	464	453	451	449	414	377	364	353	368	383
丹後地域 計		1,086	901	910	856	833	796	783	766	749	678	654	624	623	617	634

※平成36年以降の出生数からの推計については市町別に積算

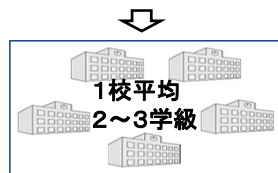
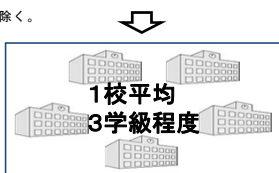
丹後地域の府立高校における今後の募集定員(推計)

★平成30年度選抜以降の数値は、平成28年度選抜における中学校3年生に対する府立高校の生徒受入率(79.4%)をもとに、
 中学校3年生数推計×79.4%で募集定員を積算し、地域別の生徒数比で機械的に各高校に割り振った(海洋高校除く)値であり、
 実際の募集定員とは異なる。

	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	平成32年	平成33年	平成34年	平成35年	平成36年	平成37年	平成38年	平成39年	平成40年	平成41年
	29選抜 実募集定員	30選抜	31選抜	32選抜	33選抜	34選抜	35選抜	36選抜	37選抜	38選抜	39選抜	40選抜	41選抜	42選抜
計	(789)	721	681	661	631	621	611	591	541	521	491	491	491	501
宮津高校	170	150	150	140	150	150	140	130	100	120	110	110	100	100
加悦谷高校	90	90	80	90	80	70	70	70	70	60	60	60	60	60
峰山高校※1	230	240	240	220	210	210	210	200	190	170	160	160	170	170
網野高校	120	130	110	110	100	100	100	100	90	90	80	80	80	90
久美浜高校	84	80	70	70	60	60	60	60	60	50	50	50	50	50
海洋高校	95	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31
平均学級数※2 (1学級40人)	17.4	17.3	16.3	15.8	15.0	14.8	14.5	14.0	12.8	12.3	11.5	11.5	11.5	11.8

*30選抜以降の海洋高校の数値は、24から28選抜(5年間)の実績数値の平均

※1...弥栄分校の募集定員を含む。 ※2...海洋高校除く。



【丹後地域の府立高校の在り方に係る基本的な考え方】

学校の小規模化により想定される主な課題 ①

○生徒数減少

- 集団での活動の機会が確保できず、人間関係が固定化しやすい。
- 学校行事や生徒会活動等の活力が乏しくなり、行事の精選が必要となる。
- 希望進路に応じたコース設定や選択科目の開講が行えない可能性がある。
- 部活動の部員数確保が困難。団体競技では公式戦に出場できないことも。

11

学校の小規模化により想定される主な課題 ②

○教員数減少

- 生徒の多様な希望に対応した教科の設定が難しい。
【例】特色あるコース設定が難しい
習熟度別授業や少人数講座の開講が難しい
授業時数の少ない教科（芸術、家庭、情報等）は
非常勤講師が授業を担当
- 非常勤講師が増え、生徒の質問への対応や放課後補習等の指導が難しくなる。
- 部活動での顧問数の確保が難しくなる。

12

学校の小規模化による教育課程上の影響（例）

定 員	360人(1学年3学級)	240人(1学年2学級)
教員定数	22人	15人
教科別教員数の 配当例	国 語 3 保健体育 3 地歴公民 3 芸 術 2 数 学 3 英 語 4 理 科 3 家 庭 1	国 語 2 保健体育 2 地歴公民 2 芸 術 1 数 学 3 英 語 3 理 科 2
コース分け	3つのコースを設定可能	2年より文系・理系の選択は可能
習熟度別授業 少人数講座	国語:科目「国語表現」で少人数 数学:1、2年で習熟度、少人数	教科の教員数が3人未満の場合は実施困難
選択科目	就職希望者用の選択科目開講 2、3年次に商業・家庭科目を4単位 程度開講	選択科目は本務者や定数内講師での対応は可能
週当たりの 授業時間数	1、2年:32時間 3年:30時間	全学年:30時間

13

丹後地域における府立高校の在り方に係る基本的な考え方 ①

■丹後地域の府立高校の主な役割

- 生徒の個性や能力を最大限に伸ばす教育
多様な学びの場の保障、教育環境の充実
教育の質の維持・向上
- 各地域の将来を支える人材の育成
- 地域社会の活性化への貢献
(地域の最高教育機関としての役割)

14

■生徒数推計だけをもとに考えた場合

<普通科・専門学科設置校>



<海洋高校>



必要学級数

5年後(H34選抜): 14~15学級



10年後(H39選抜): 11~12学級



5~6学級規模の高校が2校あれば対応可

■地域における府立高校の役割などを考えると

- 単に、生徒数だけをもとにした再編・統合は行わない。
- 丹後地域における通学事情を考慮する。
- 学校規模が小規模化することによる課題をできる限り解消する。



この3点を前提として考える必要がある

丹後地域における府立高校の在り方に係る基本的な考え方 ④

【本校・三つの道】

I 各高校を本校のままで継続する。

宮津高校

加悦谷高校

峰山高校

網野高校

久美浜高校

海洋高校



<募集定員推計>

28選抜	190	120	280	150	90
34選抜	150	70	210	100	60
39選抜	110	60	160	80	50

- ・小規模校の課題解消策の検討
- ・新しい教育内容の検討（新学科の設置、学科改編等）

現教育内容を
継承・充実

丹後地域における府立高校の在り方に係る基本的な考え方 ⑤

【本校・三つの道】

II 統廃合により学校規模を確保し、教育内容の充実を図る。

【宮津・与謝地域】

1校に統合



【京丹後地域】

2校に統合



海洋高校



新しい教育内容の検討（新学科の設置、学科改編等）

現教育内容を
継承・充実

丹後地域における府立高校の在り方に係る基本的な考え方 ⑥

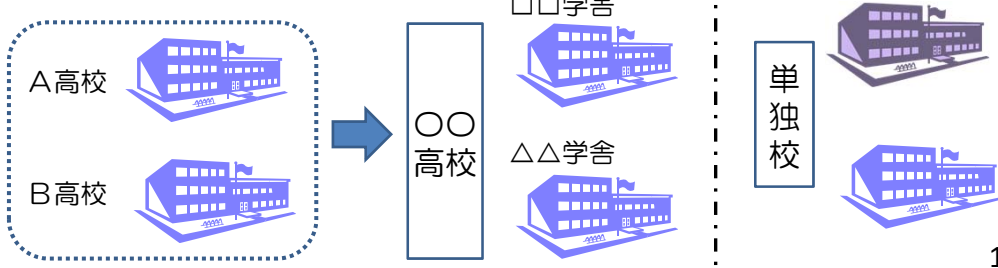
【本校・三つの道】

Ⅲ 近隣の複数の高校を1つの高校として再編する
「学舎制」を導入する。

Ⅱ

単独校 + 学舎制（キャンパス化）の導入を検討

<学舎制>



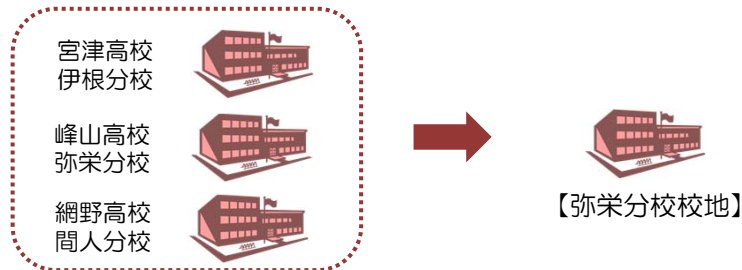
19

丹後地域における府立高校の在り方に係る基本的な考え方 ⑦

【分校】 3校を1校に統合して機能を集約する。

Ⅱ

峰山高校弥栄分校の校地に統合し、京都フレックス学園構想に
基づく柔軟な教育システムによる教育を推進



※京都フレックス学園構想

従来の全日制、定時制、通信制といった固定概念にとらわれない新しい高校づくり。例えば、単位制により卒業までの年数を3年又は4年と選択できるようにするなど、自分のペースで学びたい生徒の多様なニーズに対応する柔軟な教育システムの構築と若年者の社会的自立を支援する教育の推進を目指すもの。

20

学舎制のイメージ

～これまでの本校・分校といった固定概念や呼称にとらわれない新しい高校づくり～

学校の再編に当たり、教育環境の充実、通学の利便性を図るため、近隣の複数の高校を1つの高校とし、元の高校をそれぞれ“学舎”として活用する形態。日常の授業は各学舎で行いつつ、学舎間で多様な交流・連携の機会を持つことで様々な教育の可能性が広がる。

- 他府県でも導入、校舎制やキャンパス制とも呼称
- 学舎間に上下関係はなく、それぞれが魅力ある教育活動を展開
- 授業はそれぞれの学舎で行うが、教員が学舎を移動して授業を行ったり、生徒が移動して特別授業を合同実施するなど、多様な交流機会を持つ

21

学舎制の導入を進める理由

【本校・三つの道】

I 各高校を本校のままで継続する。

それぞれの高校で、今後、生徒数の減少による学校教育諸活動への影響が生じ、丹後地域全体の高校教育の質の低下を招くことが懸念される。

II 統廃合により学校規模を確保し、教育内容の充実を図る。

学校規模の確保により教育環境の維持・充実を図ることができる。
一方で、地域の活性化等に対して高校が果たす役割に期待する声がある。

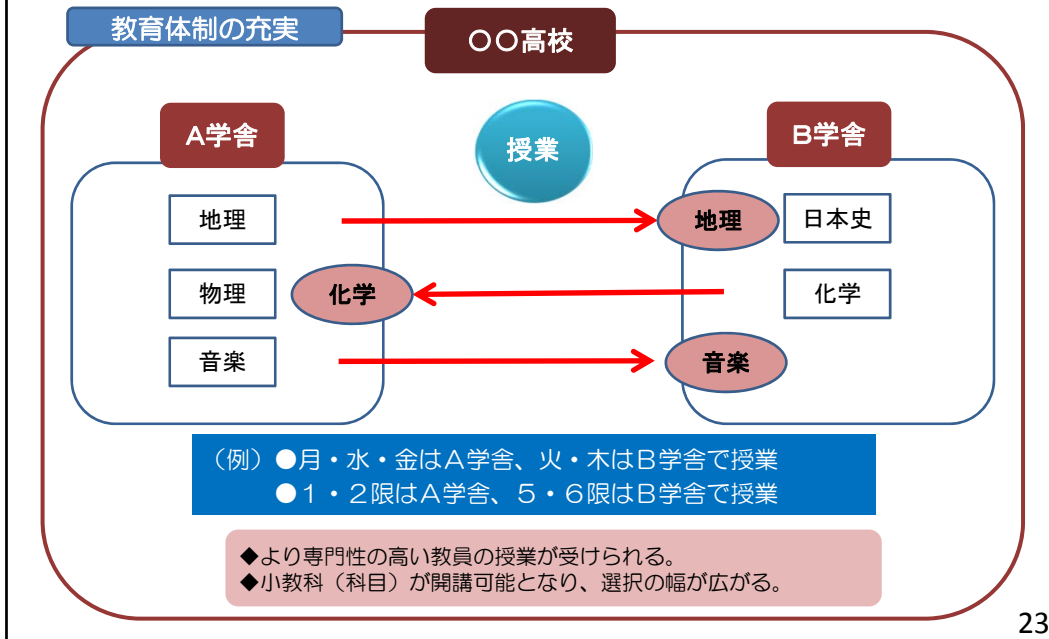
上記の課題を総合的に勘案し、

III 近隣の複数の高校を1つの高校として再編する「学舎制」を導入する。

に向け検討を進めていくことが現時点では望ましいと考える。

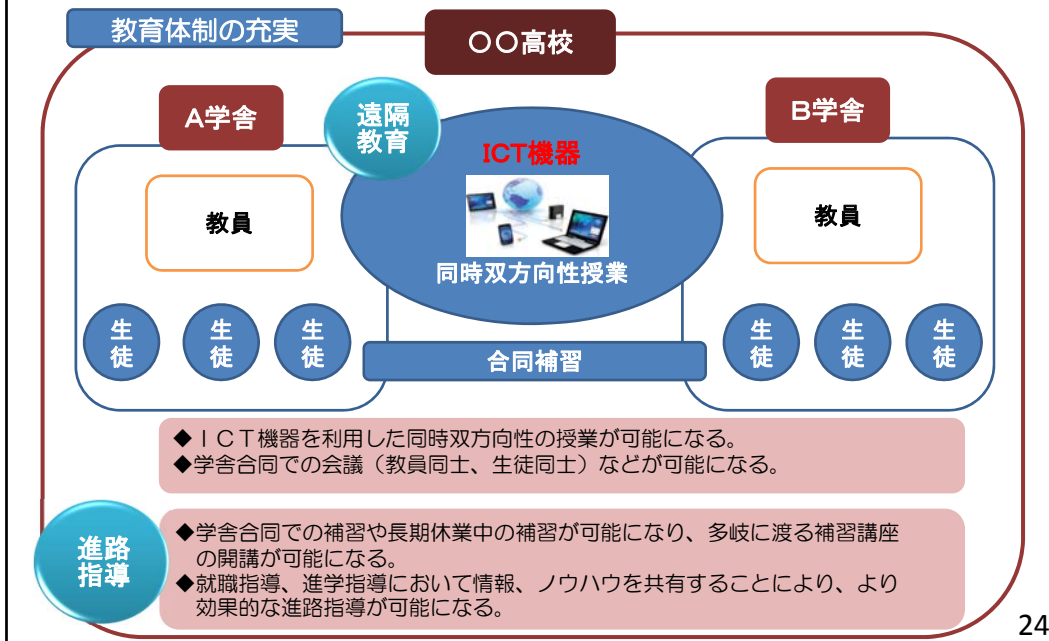
22

学舎制により広がる可能性～授業～（イメージ）



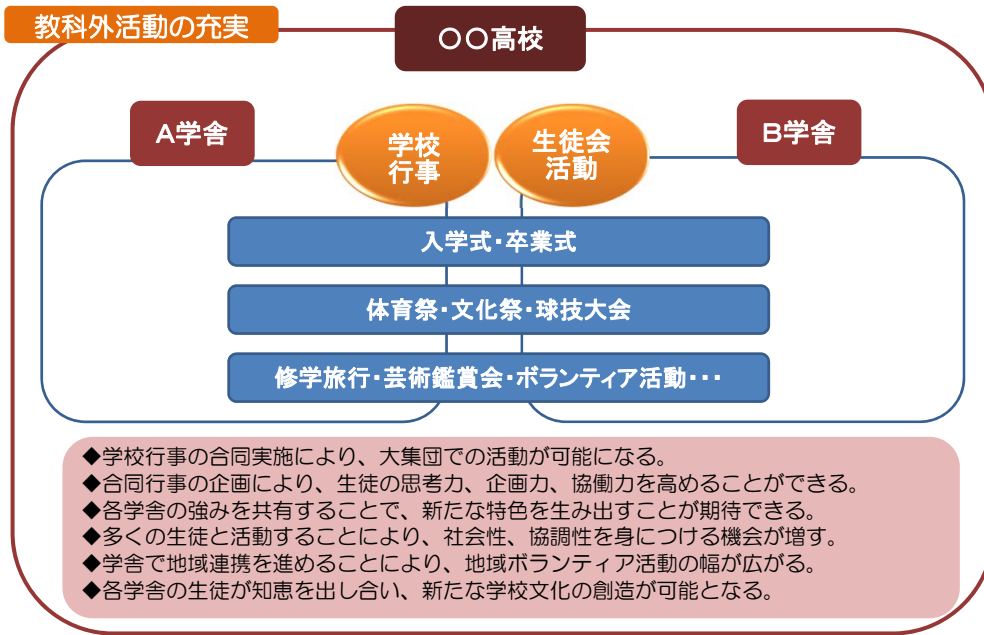
23

学舎制により広がる可能性～遠隔教育・進路指導～（イメージ）



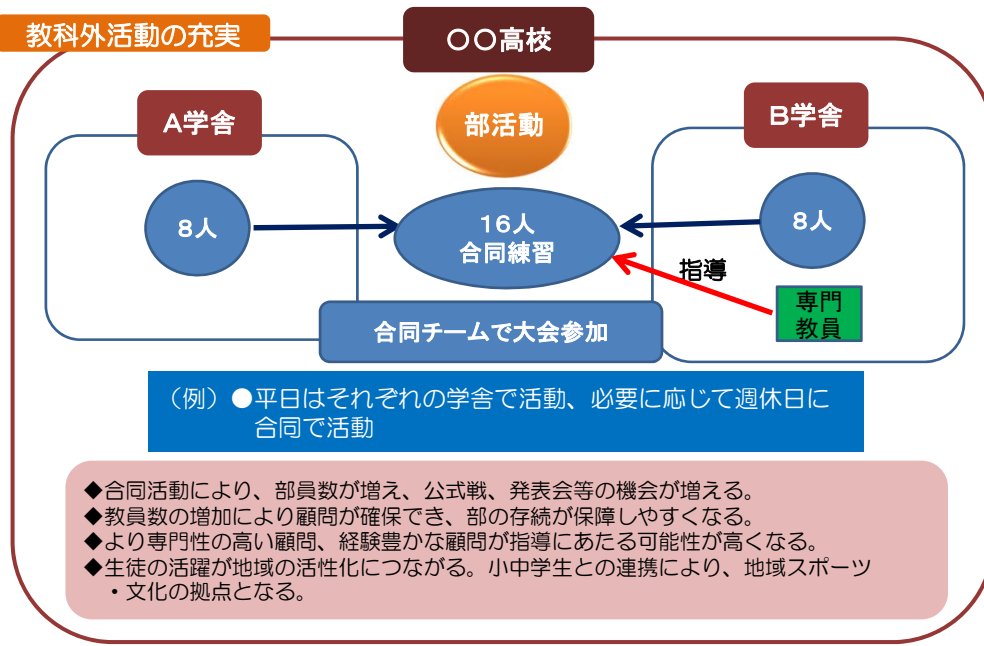
24

学舎制により広がる可能性～学校行事・生徒会活動～（イメージ）



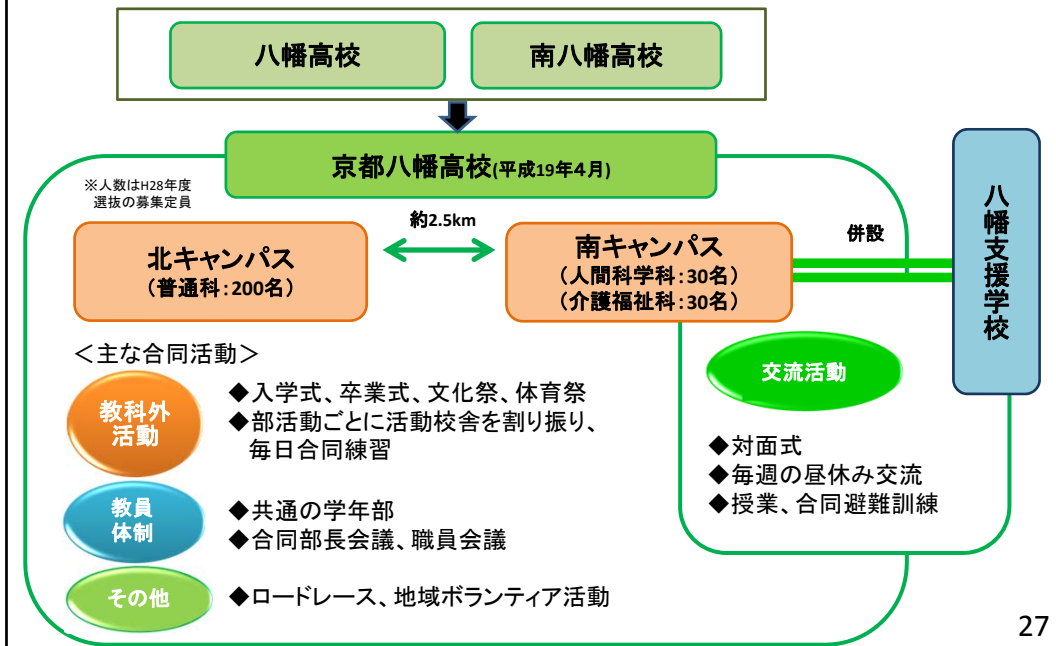
25

学舎制により広がる可能性～部活動～（イメージ）

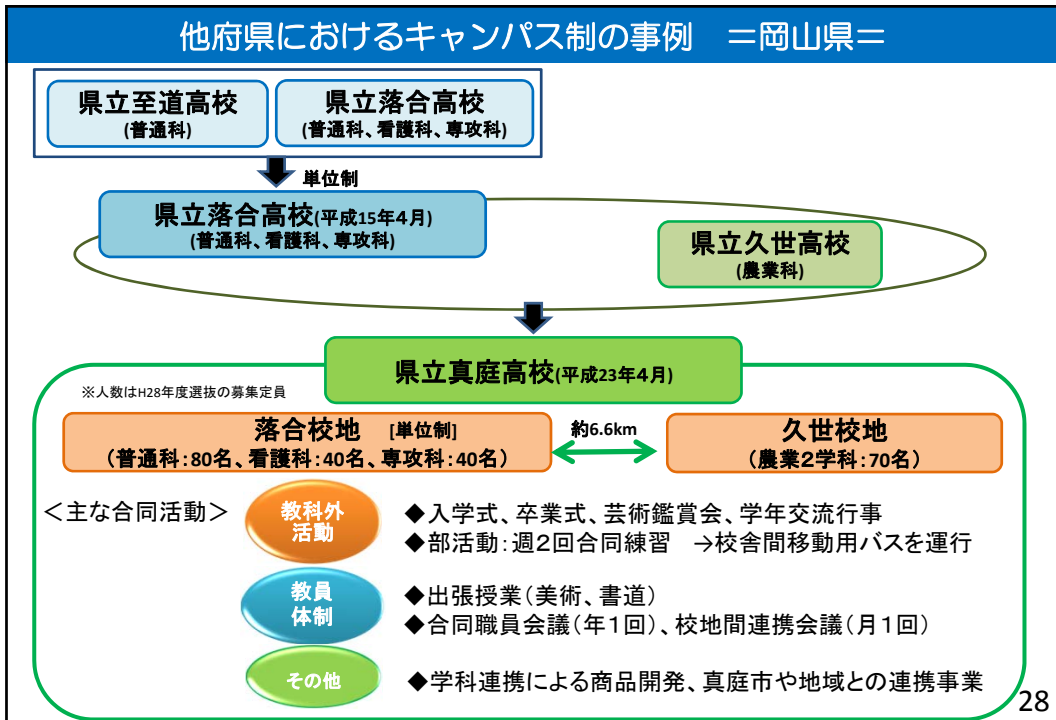


26

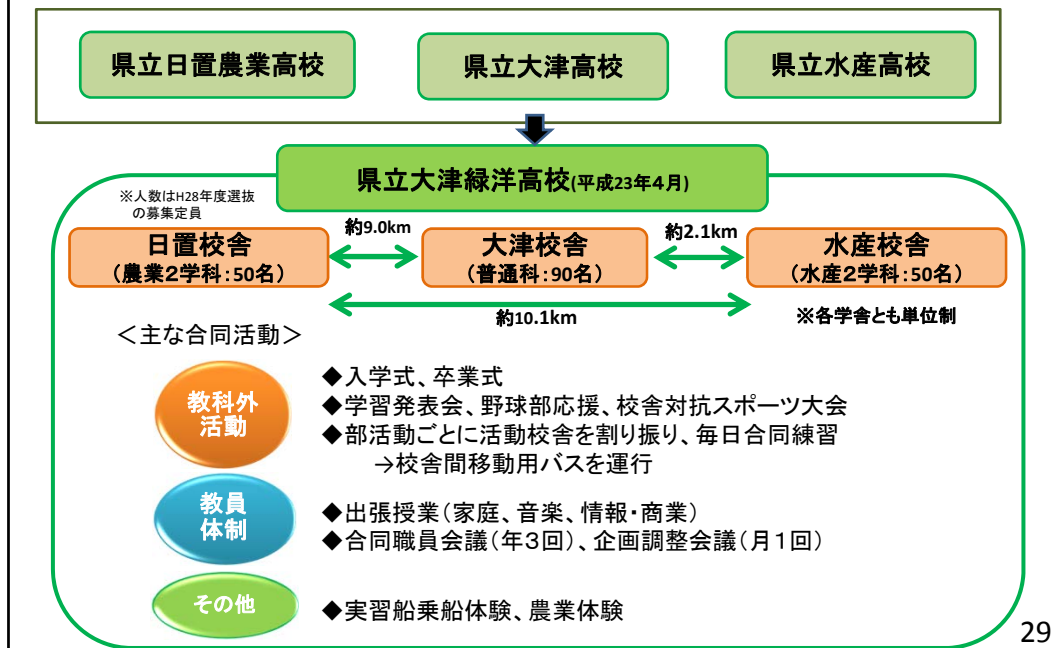
京都府におけるキャンパス制の事例



他府県におけるキャンパス制の事例 岡山県



他府県におけるキャンパス制の事例 二山口県二



29

学舎制を導入する場合に必要な対応策

- 学舎間での役割分担や緊密な連絡調整・情報共有を図る。
同一校としての一体感を醸成する。
校務分掌や教育課程において連携を図る。
学校行事や部活動の合同実施に向けた調整を行う。 など
- 学舎間の移動手段としてスクールバスを整備する。
部活動や学校行事などにおいて生徒が円滑に移動できるよう、学舎間を運行するバスを整備する。
- ICTを活用した遠隔授業を行える環境を整備する。

30

学舎制を導入する場合の対象校（例）

宮津・与謝地域及び京丹後地域において、2高校を1つの高校とし、それぞれの現校舎を「学舎」とする場合

【宮津・与謝地域】



宮津高校

加悦谷高校

海洋高校



【京丹後地域】



網野高校

久美浜高校

峰山高校



31

学舎制を導入する場合のスクールバスの運行例

<目的>

学舎間で連携した取組を行う際に生徒が円滑に移動できるようにする。

<活用例>

部活動や学校行事、地域の体験活動など

なお、部活動等は、必ずしも全て合同で実施するものではなく、一緒に取り組むことが有意義で効果的なものについて、学舎間で調整して行う。

<平日の部活動を想定したバス運行のイメージ>

◆往路 15:45～ A学舎 → B学舎

B学舎 → A学舎

◆復路 18:30～ A学舎 → B学舎

B学舎 → A学舎

※学舎間で運行時間は調整

※復路のバス運行では、生徒は在籍している学舎に戻ることを基本としつつ、居住地によって現地解散、または丹鉄の駅で途中下車するなどの運用も考えられる。

網野高校

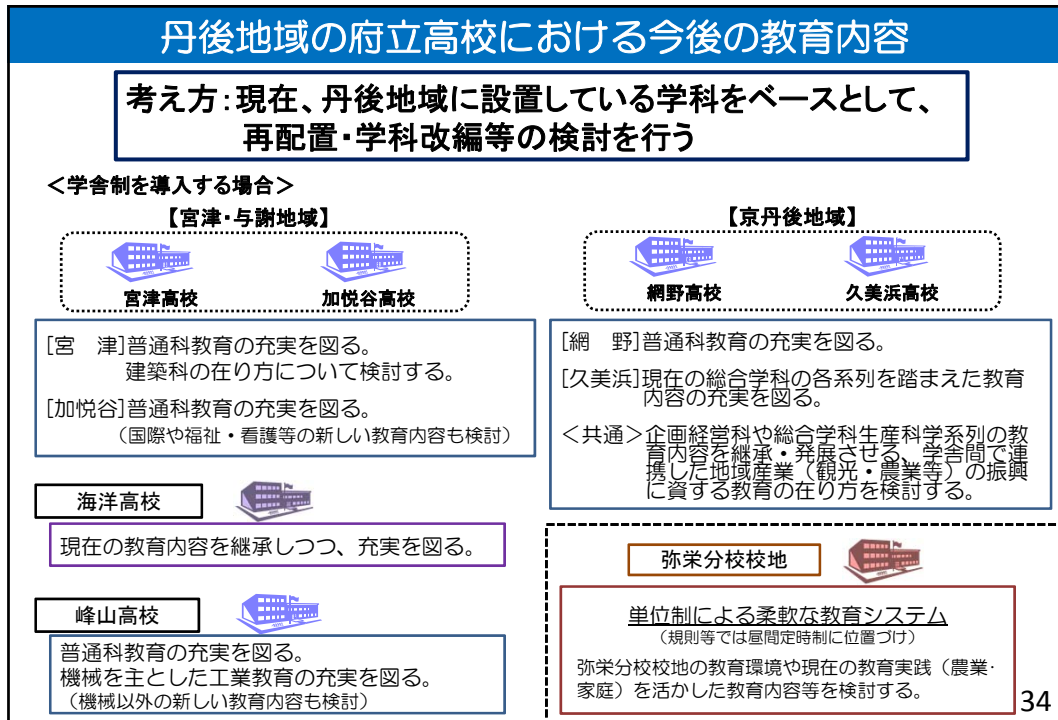
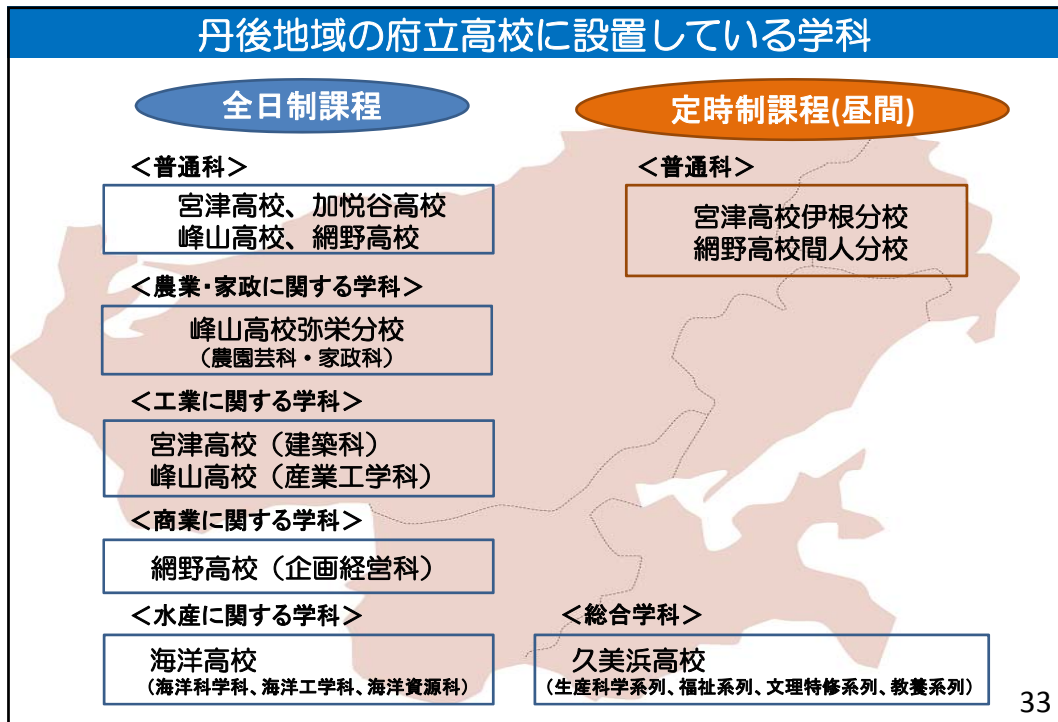
久美浜高校

加悦谷高校

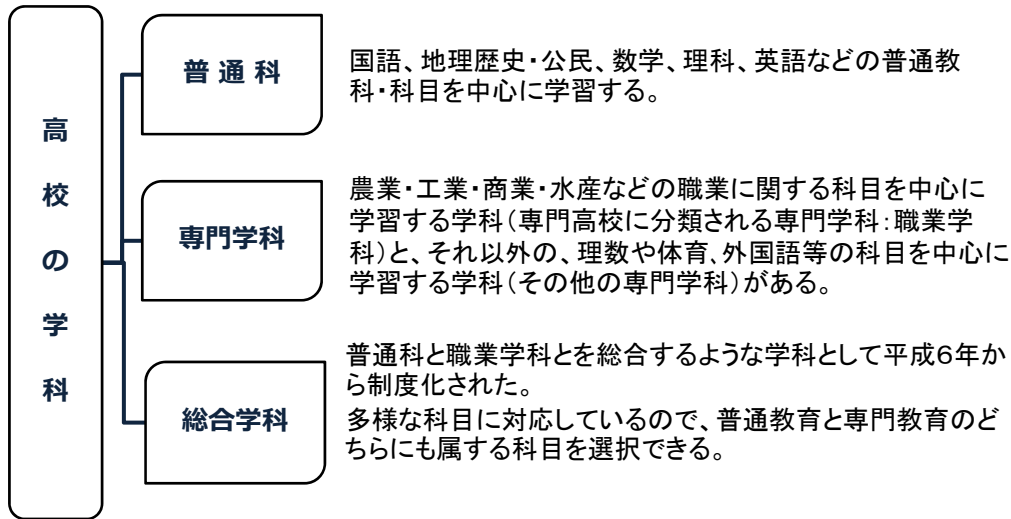
宮津高校

32

【丹後地域の府立高校に求める教育内容】



高校の学科



35

高校における各学科の特徴 ①

■専門学科

学科の区分	特徴
農業に関する学科	食料生産や草花、造園、農業土木、林業林産加工、食品加工に関する専門知識やバイオテクノロジー等の技術を身に付けます。関係する資格取得に有利で、大学の関係学部への進学にも実績を上げています。
工業に関する学科	コンピュータやエネルギーの活用、通信や生産、建築に関する専門知識・技術を身に付けます。関係する資格取得に有利で、就職はもとより、大学の関係学部への進学にも実績を上げています。
商業に関する学科	会計、コンピュータの活用方法、販売・経済活動に関する専門的な知識・技術を身に付けます。関係する資格取得に有利で、就職はもとより、大学の関係学部への進学にも実績を上げています。
水産に関する学科	船舶運用、海洋開発、水産資源の管理・活用等、水産・海洋に関する専門的な知識・技術を身に付けます。資格取得に積極的に取り組むとともに、関連する職種への就職や上級学校の進学に対して確かな実績を上げています。
家庭に関する学科	衣食住、高齢者の介護や保育等家庭全般について学習します。関連する資格取得に有利で、大学の関係学部への進学にも実績を上げています。

36

高校における各学科の特徴 ②

■ 専門学科(続き)

学科の区分	特徴
情報に関する学科	ネットワークシステム・データベース・情報数学など情報の最先端の体系的な知識や技術、幅広い教養を身に付け、論理的・数理的に分析・思考できる力を育成し、理工・情報系の大学進学を目指します。
福祉に関する学科	専門科目の学習により3年間で介護福祉士の国家試験受験資格を取得できます。介護福祉士等、福祉関係の就職及び大学等への進学を目指し、福祉のスペシャリストとして活躍できる人材を育成します。
体育に関する学科	社会人として必要な普通科目と体育に関する専門知識・技術等を身につけるための専門科目をバランスよく学習します。資格取得や大学進学への道も開けており、より高度な体育や体育関連分野に関する学習ができます。
他にも種類として、看護、理数、音楽、美術、外国語、国際関係に関する学科があります。また、その他の専門学科で普通教育に関する科目をより高度に拡充させた専門科目を学習し、大学や専門機関と連携し、学問・研究への関心や探究力などを高めるものもあります。	

■ 総合学科

学科の区分	特徴
総合学科	普通科・専門学科と異なる新しい「第3の学科」です。普通科目、専門科目など多様な科目の中から、興味・関心や希望進路に応じて自由に科目を選択することができます。

37

再編を行う場合の実施時期

	再編実施						
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度
現在の高校に入学して卒業する	中学校3年 → 高校1年 → 高校2年 → 高校3年 → (定:高校4年)						
	中学校2年 → 中学校3年 → 高校1年 → 高校2年 → 高校3年 → (定:高校4年)						
	中学校1年 → 中学校2年 → 中学校3年 → 高校1年 → 高校2年 → 高校3年 → (定:高校4年)						
再編後の高校に入学する	小学校6年 → 中学校1年 → 中学校2年 → 中学校3年 → 高校1年 → 高校2年 → 高校3年						
	小学校5年 → 小学校6年 → 中学校1年 → 中学校2年 → 中学校3年 → 高校1年 → 高校2年						
	小学校4年 → 小学校5年 → 小学校6年 → 中学校1年 → 中学校2年 → 中学校3年 → 高校1年						

■ 平成32年度からの実施を目指して検討を進める。

※大幅な変更を伴わない学科改編等については、先行することもある。

[平成32年度からとする理由]

- ①すでに進路決定の時期にある現在の中学校3年生への影響（高校在学時における大きな変化をさける）を考慮
- ②新しい教育内容等を各高校において検討し、周知していく期間が必要

38

懇談会にご参加いただき、ありがとうございました。



丹後地域の府立高校の在り方検討の経過や詳細は、
高校教育課のホームページに掲載しています。